

<学校名> 和光市立下新倉小学校  
<所在地> 和光市下新倉 5-21-1  
<電話> 048-464-0500  
<本事例の特徴>

日本人学校に勤務経験のある教員や、海外経験の豊富な保護者と連携した国際理解教育の取組を紹介する。オンラインでの交流授業や、体験活動を通じた食文化の学習によって、児童が文化の違いについて知るとともに、外国をより身近に感じることができた。

### <具体的な取組や成果>

#### 1 ○外国語の時間の「国際理解教育」～リモートで現地とつながる

- ・6年生は在外勤務経験のある教員が在籍していたマレーシアの日本人学校との交流を行った。マレーシアの観光地について英語での紹介を聞き、こちらからは日本の学校行事や生活の様子などを英語で紹介した。その後、お互いの生活について気になることについて日本語で交流を行った。児童は、文化や生活の違いを身近に感じ、他の国にも興味を示していた。

#### ○児童の感想より（一部）

マレーシアでは多くの民族がくらしていると聞いて、いろいろな言葉や文化が混ざっているけれど、違う民族同士でも交流できることがすごい。外国の文化を知るには、英語を勉強したり、文化を受け入れたりすることが必要だと思った。

今回の話を聞いて、マレーシアにも他の国にも、興味をもった。美しかったり、不気味だったりする生き物など、見たことないものがたくさんあって面白かった。日本とは違うことがいっぱい外国に行ってみたいと思った。

#### 2 ○外国語の時間の「国際理解教育」～世界のカレー

- ・カレー店を営む保護者を招き、世界的カレーについて紹介してもらった。児童はそれを参考に、オリジナルカレーを考え、給食に提案した。実際にスパイスを粉にする道具も持参していただき、実際にすりつぶす体験もさせていただいた。

#### ○児童の感想より（一部）

世界には、地域によってその地域の特徴を生かしたカレーがあり、具材や見た目が私の知っているものと全く違うものもたくさんあった。カレーを知ることで、その国のことについても知ることができた。

日本でも、家庭によって具材が違うことは意外でびっくりした。もっとほかの国のカレーについても知りたいし、何が一番おいしいのか、どんな味がするのか気になったので、食べてみたい。

